

枯山へわが大声の行つたきり

藤田湘子

湘子の句集を読むと一人称の「わが・われ・我」など
と自分との関わりを明確にしようとする句が多いのに気
づく。たとえば、最晩年の三年間、俳誌『鷹』2003
年一月号から、2005年五・六月合併号までに発表さ
れた総句数357句の内、「わが・われ・我」が詠まれ
た句は18句。約五パーセント。つまり、20句に一句
は出現していることになる。

師兄した石田波郷には、「初蝶や吾が三十の袖袂」「わ
が死後へわが飲む梅酒遺したし」があり、波郷は作句心
得の一つとして「一句の主人公は常に「われ」でなけれ
ばならない」と書いている。枯山へ一歩進めて、禅の
「主人公」なるものを希求していたのかもしれない

2003年 (H15作) 第十一句集『てんてん』 鑑賞・轍郁摩